

大学生における性的少数者の理解と受容の背景

C121030 鈴木 礼華

性的少数者の理解・受容の現状と背景について研究するために、神戸学院大学心理学部の学生を対象に調査を行った。その結果、因子分析では3因子19項目が抽出され、対応のない t 検定では学校で知った場合とそれ以外で知った場合の各因子得点において有意な差はなかった。また、理解・受容と、マスメディアおよび SNS の利用の間の相関分析では関連性が低いとわかった。さらに、取り上げられた頻度は多くても1ヶ月に数回であり、理解・受容との繋がりには低いことがわかった。以上より、理解・受容にマスメディアや SNS の利用は関連しておらず、カミングアウトを受けた際の行動と高校の授業やセミナーで取り上げられた回数にも関連性がないことが明らかとなった。これは、若者がインターネットに触れる機会が増えていること、近年性的少数者に対する受容が広がりつつあることが関係していると考えられる。今後の取り組みとしては当事者の意見を聞き、過度に取り上げずに自然と向き合う環境を作っていくことが重要だといえるだろう。

身振りの有無が聴覚情報理解に及ぼす影響

C121135 奥田 結衣

発達障害や精神疾患などが背景要因にある人は、聴覚情報理解に困難さをもつことがあり、その支援のひとつとして、身振りなどの非言語的情報を同時に提示する方法が用いられるが、理解の促進についての詳細は不明である。そこで、本実験では、身振りの有無が聴覚情報理解に与える影響を検討することを目的とし、問題の難易度の違いによる影響についても検討を行った。具体的には、大学生52名（平均年齢18.5歳、 $SD = 0.75$ ）に対して、聴覚情報を音声のみで提示する条件、音声と同時に身振りを画面で見る条件、音声と同時に画像を見る条件に分けて提示した後、文章理解課題を実施し、身振りの有無によって成績が変化するか実験を行った。その結果、低難易度の問題において身振りは聴覚情報処理を阻害するが、高難易度の問題においては聴覚情報処理を促進することが示された。この結果は、選択的注意における情報処理レベルの違いが関与している可能性があると考えられる。

**チャットメッセージの文末句点が感情理解に与える影響
——大学生を対象とした質問紙による印象調査——**

C121165 日山 陽菜

2024 年, LINE などのチャットにおいて, メッセージの文末に句点「。」を付けることで相手に威圧感を与える現象が「マルハラ」として注目を集め, 一部で話題となった。しかし, 国内の先行研究では, チャットメッセージにおける句点が受け手の感情理解に与える影響についての検討はまだ少ない。そこで本研究では, 「マルハラ」の背後にあるメカニズムを探索的に調査し, さらに, 送信相手との関係性とその影響に及ぼす効果について検討した。SD 法を用いて文末句点の有無による印象評価を測定し, 記述統計と分散分析を行った。その結果, メッセージの印象には文末句点の有無だけでなく, 送信相手との関係性や文脈が重要な要因となることが示唆された。また, 「マルハラ」のメカニズムとして, 若年層にとって句点は相手の意図を汲み取りにくい要素であり, その結果, 多様な解釈を生むことで句点に過敏に反応する人が一定数存在する可能性が推測される。